



2008～09 年度
国際ロータリー会長

李 東 建

Weekly Report Niigata



2008～09 年度
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 5月第 2 例会 (2009.5.19) No.2800

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 柴田 史郎会長挨拶

体調を崩し例会を2回欠席致しました。皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

さて、普段医療行為を行っている者が医療を受ける側に立たされた場合、どのような感慨を持つとお思いでしょうか。一般論として結論から申し上げますと、一般の方々とさしてかわるところは無いということです。病院食が不味いとか、病棟に入院してしまうとドクターよりナースの方が頼りになるとか、患者が知りたい或いはして欲しい事と医者への対応に乖離があるとか、そんな所です。

ナースの評価に関していえば、医者としてみた場合に評価が高いナースが、患者側から見ると必ずしも評価が高くなるとは限らないことなどが見えてくることがあります。技術的なことも大切ですが、患者側のペースで介護が出来るナースの方が患者には評価が高いというようなことです。これは医者にも当てはまることなのでしょうが。

また、医者は専門家ではありますが、患者が持っている心配事や知りたいことを充分理解しているとは限りません。その点はともかくとして、この点はどうだろうか・・・という思いを持っている患者は非常に多いのです。要は、ともかく何でも主治医にざっくばらんに聞くことをお勧めしたいと思います。その方が医者にとっても大変勉強になるのです。

一方、患者として入院してつくづく感じたことは次のようなことです。

私は医者という、ある意味で社会的弱者であるところの「病人」を対象とする職業をもっているにも拘わらず、実際には日常生活の中で広く社会的弱者に対して思いを寄せることが大変難しいと言うことです。意識していないとなかなか出来ないものなのです。実業界でご活躍の皆様もその点同様に思われる方も多いのではないかと思います。意

識するということ言えば、自己の事業所に一人でも二人でも良いですから障害者を採用し、共に働く機会を持つというのも一つの方法かもしれません。

ロータリー活動は人生道場のようなものだといわれますが、自らを磨くということの中に社会的弱者への視点を持つことも大切な一面であるように思われます。

(3) 槌熊 紀雄君へマルチプル・ポールハリスフェロー・ピン贈呈

(4) 幹事報告(石井 和弘次期幹事)

5月23日 土曜日 柏崎総合体育館で地区協議会が開催されます。バスに89ご乗車の方はシルバーホテル前 8:00 古町十字路 8:15 出発です。

5月26日の例会予定

卓話「新潟国体県選手団の躍進に向けて」

(財)新潟県体育協会 会長 馬場 潤一郎 氏

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

(5) 公開シンポジウム

「いのち！守り受け継がれるために」報告

社会奉仕担当理事 竹 石 松 次 君

今回の公開シンポジウムは、社会奉仕委員会と職業奉仕委員会が共同で実施したもので、昨年夏から検討を重ねてきたものである。

新潟いのちの電話の真壁伍郎理事長の講演、そして、柴田史郎会長、樋熊紀雄氏、徳永昭輝氏によるシンポジウムでは、医師の立場からいのちの大切さを話していただいた。

とにかく命の尊さを軽く見ての犯罪や自殺が目立つ昨今にあって、かけがえのない命を様々な立場の人達によって貴重な体験談や実践が披露された。

我がロータリークラブの活動の一つとして一般市民を対象にした今回の試みは自分たちが出来るほんの一つの社会活動として記録されることとなった。

尚、シンポジウムの模様はCD-ROMにまとめられ配布されることになった。